

3年生性教育 2025/09/25

保健室の先生が、3年生の子ども達に性教育＝赤ちゃんの誕生の学習をしていました。



はじめは、0.1ミリ、見えないくらい小さな受精卵から始まっていること。
お母さんと、へその緒でつながっていて、酸素と栄養をもらっていること
羊水の中でプカプカと浮いて、衝撃や揺れから守られていること
10か月で7～10キログラムお母さんの体重が増えていることを習いました。

赤ちゃんが誕生した時には、大きく鳴き声をだして呼吸を始めること
へその緒も切って、自分で母乳を飲んで栄養を取るようになることなども習いました。

赤ちゃんのうぶ声は、保健室の先生の赤ちゃん誕生の時の、本当の産声を聞かせてもらいました。赤ちゃんの生まれた時の力強い鳴き声って、元気をもらいますね。



そのあとは、妊婦体験と赤ちゃん抱っこ体験をしました。

- ① 生まれる前の赤ちゃんに見たてた10kgのリュックを前にかついで、下に落ちた鉛筆を拾う体験と
- ② 生まれたばかりの首の座っていない赤ちゃんの抱っこ体験をしました。



こどもたちは、みんな10か月も母体の中で、母親の温かい愛情を受けて育ってきたんですね。子どもたちは、「24時間寝るときもずっとおなかがこの状態」であったこと、「首の座っていない赤ちゃんの抱っこが怖かったこと」など、みんな今まで自分の成長を支えてくれた方に「ありがとう」を言いたいと、感謝の気持ちとはぐくまれた自分の命を大切にしたいという気持ちをもてたようです。